

平成30年度第2回さいたま市地域医療構想調整会議 次第

平成30年12月12日(水) 午後7時45分～
保健所2階 第1研修室

1 開 会

2 議 題

(1) 病院プレゼンテーションについて

- ①埼玉県立小児医療センター
- ②順天堂大学医学部附属埼玉国際先進センター (仮称)
- ③さいたま岩槻病院
- ④カリヨンの杜
- ⑤大宮共立病院
- ⑥岩槻中央病院
- ⑦わかくさ病院

(2) 有床診療所(産婦人科)の開設について

- ①届出有床診療所の概要について 【埼玉県保健医療部医療整備課】
- ②事前協議計画の概要書の説明について 【(仮)前産婦人科】

(3) その他

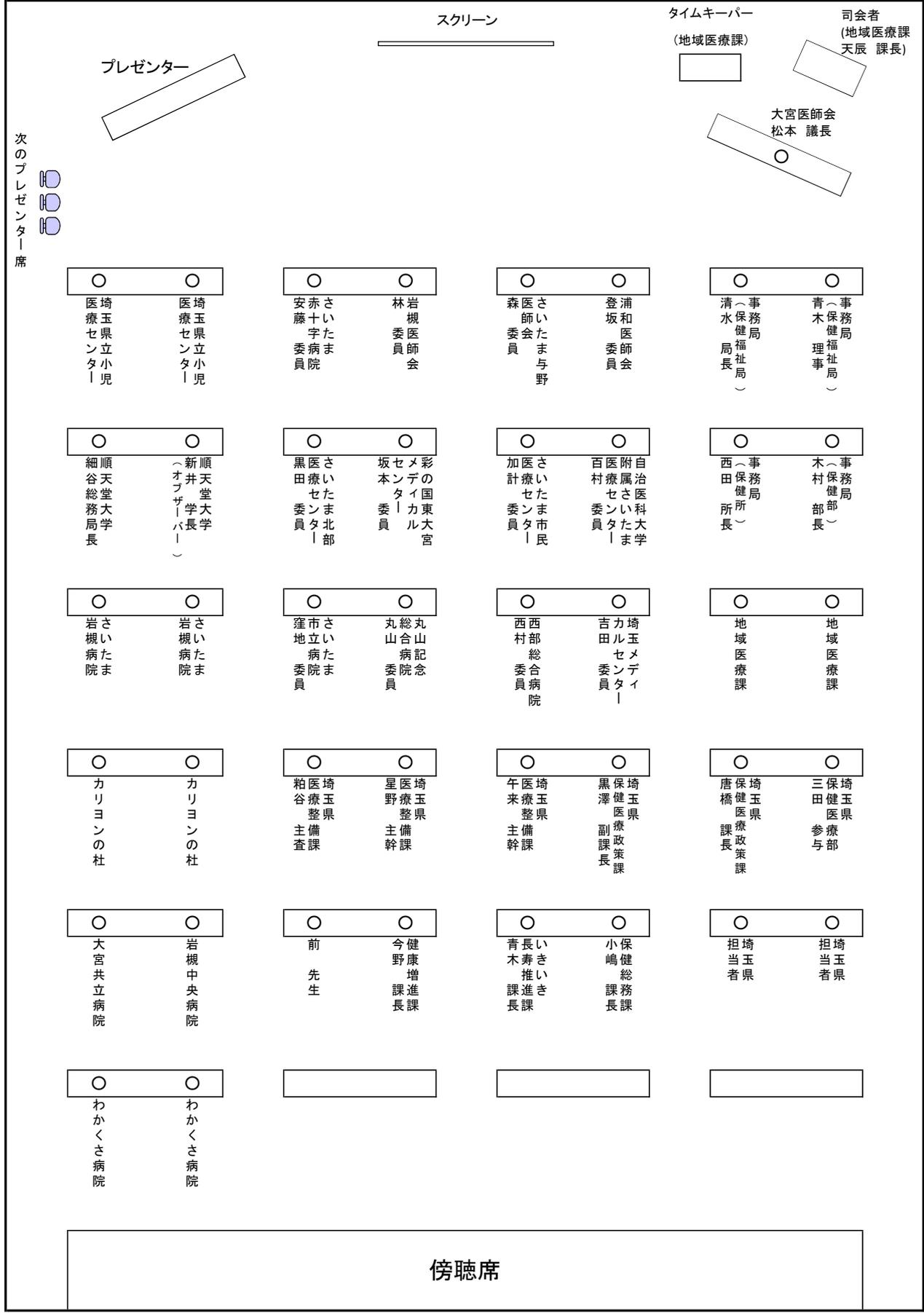
3 閉 会

《資料》

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 委員名簿
- ・ 病院プレゼンテーション出席者一覧
- ・ 資料1 病院プレゼンテーションの順番について
- ・ 資料2 病院プレゼンテーションに関するお願い
- ・ 資料3 病院説明書
- ・ 資料4 届出有床診療所の概要
- ・ 資料5 事前協議計画の概要書
- ・ 参考資料1 医療機関配置図
- ・ 参考資料2 H29年度病床機能報告結果
- ・ 参考資料3 病床機能報告定量基準分析結果

平成30年度第2回さいたま市地域医療構想調整会議 座席表

保健所2階 第1研修室



次のプレゼンター席

プレゼンター

スクリーン

タイムキーパー

司会者
(地域医療課
天辰 課長)

(地域医療課)

大宮医師会
松本 議長

○ ○
医 埼 医 埼
療 玉 療 玉
セ 県 セ 県
ン タ 立 ン タ 立
ー 小 ー 小
児 児

○ ○
安 赤 林 岩
藤 十 柳 柳
字 字 委 委
病 病 員 員
院 院 会 会

○ ○
森 医 さ 登 浦
会 師 いた 坂 和
委 会 たま 委 医
員 員 与 員 師
野 野 野 員 員 会

○ ○
清 事 青 事
水 務 木 務
健 局 保 健
福 局 健 福
祉 局 祉 局
局 局 局 局
長 長 長 長
() ()

○ ○
細 順 順 順
谷 天 天 天
総 堂 堂 堂
務 大 大 大
局 学 学 学
長 長 長 長
(オフ ザー バー)

○ ○
黒 医 さ 坂 セ 彩
田 療 いた メ の
委 セ た 本 セ 国
員 タ ま 委 タ イ 東
ノ 北 員 カ ル 大
部 部 員 大 宮

○ ○
加 医 さ 百 医 附
計 療 いた 村 療 自
委 セ た 委 属 治
員 タ 市 員 委 医
ノ 民 員 員 科
部 部 員 員 大
大 大 大 大
学 学 学 学

○ ○
西 事 木 事
田 務 村 務
保 局 保 局
健 所 健 所
所 所 所
長 長 長 長

○ ○
岩 さ 岩 さ
柳 いた 柳 いた
病 病 病 病
院 院 院 院
ま ま

○ ○
窪 市 さ 丸 総 丸
地 立 いた 山 合 山
委 病 た 委 山 山
員 院 ま 員 院 院
ノ 部 員 委 員 念

○ ○
西 西 吉 力 埼
村 部 田 ル 玉
委 総 委 委 委
員 合 員 員 員
院 病 セ 員 員 員
ノ 院 ン タ イ

○ ○
地 域 地 域
医 療 医 療
課 課

○ ○
カ リ カ リ
リ ャ ン の 杜
ヨ ン の 杜

○ ○
粕 医 埼 星 医 埼
谷 療 玉 野 療 玉
整 整 主 主
主 備 備 備 備
査 課 課 課 課

○ ○
午 医 埼 黒 保 埼
来 療 玉 澤 健 玉
主 整 県 黒 健 玉
備 備 副 療 医 県
幹 幹 課 政 策
ノ 課 課 長 課

○ ○
唐 保 埼 三 保 埼
橋 健 玉 田 健 玉
医 医 医 医
療 療 療 療
課 課 課 課
長 長 長 長

○ ○
大 宮 岩 柳
共 立 中 央
病 院 病 院

○ ○
前 今 健
先 野 康
生 生 増
ノ 課 進
部 長 課

○ ○
青 長 い 小 保
木 寿 き 嶋 健
推 推 嶋 健
進 進 長 総
長 長 長 務
課 課 課 課
ノ 課 課 長 課

○ ○
担 埼 担 埼
当 玉 当 玉
者 者 者 者
ノ 者 者 者 者
部 部 部 部

○ ○
わ かく さ 病 院
わ かく さ 病 院

傍聴席

さいたま市地域医療構想調整会議委員名簿

	所 属	職 名	氏 名
委 員	1 一般社団法人浦和医師会	会長	登坂 英明
	2 一般社団法人大宮医師会	会長	松本 雅彦
	3 一般社団法人さいたま市与野医師会	会長	森 泰二郎
	4 一般社団法人岩槻医師会	会長	林 承弘
	5 さいたま赤十字病院	院長	安藤 昭彦
	6 自治医科大学附属さいたま医療センター	センター長	百村 伸一
	7 さいたま市民医療センター	院長	加計 正文
	8 医療法人社団協友会彩の国東大宮メディカルセンター	院長	坂本 嗣郎
	9 地域医療機能推進機構さいたま北部医療センター	院長	黒田 豊
	10 地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター	院長	吉田 武史
	11 医療法人聖仁会西部総合病院	理事長	西村 直久
	12 医療法人慈正会丸山記念総合病院	理事	丸山 泰幸
	13 さいたま市立病院	院長	窪地 淳
オブザーバー	1 順天堂大学	学長	新井 一

病院プレゼンテーション出席者一覧

	所属	役職
1	埼玉県立小児医療センター	病院長
		事務局長
2	順天堂大学	学長
		総務局長
3	さいたま岩槻病院	事務長
		事務次長
4	カリヨンの杜	理事長 施設長
		理事長補佐
5	大宮共立病院	事務長
6	岩槻中央病院	事務長
7	わかくさ病院	事務局長
		事務局次長

病院プレゼンテーションの順番について

※ブロック毎に病床数順となっております。

(新公立病院改革プラン関係)

1 埼玉県立小児医療センター

(新規開設予定病院)

2 順天堂大学医学部附属埼玉国際先進センター (仮称)

(今年新規開設病院)

3 さいたま岩槻病院

4 カリヨンの杜

(既開設病院)

5 大宮共立病院

6 岩槻中央病院

7 わかくさ病院

病院プレゼンテーションに関するお願い

さいたま市地域医療構想調整会議 事務局

会議の円滑な運営のため、以下の点についてご協力をお願いします。

- 病院説明書をスクリーンに映し出します。事務局がパソコンを操作いたします。
- 各病院のプレゼンテーション時間は5分間です。
- 4分経過時にベルを1回鳴らします。5分経過時にベルを2回鳴らしますので、プレゼンを終了してください。
- プレゼン終了毎に、質疑応答時間を設けております。
- 質問する場合は、お一人でいくつも質問せず、端的な質問をお願いいたします。
- 本日、プレゼンテーション予定の病院は、任意でご参加いただいております。すべての質疑にその場でお答えすることは難しいこともありますので、あらかじめご了承ください。

病院説明書

病院名	埼玉県立小児医療センター					
所在地	さいたま市中央区新都心 1-2					
病床数：316床						
現在 (2018年)	一般病床			療養病床	合計病床数	
	316床			床	316床	
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
106床	210床	床	床			
↓						
2025年	一般病床				合計病床数	
	316床				316床	
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
106床	210床	床	床			
<p>当院は小児医療の三次医療機関として埼玉県の病める子どもたちに小児医療を提供しています。H28年12月にさいたま新都心へ移転し、新病院では地域の先生方と疾病や重症度に応じた適切な役割分担を行い、医療連携を進めています。</p>						
<p>診療科目：合計29科 総合診療科、新生児科、代謝・内分泌科、消化器・肝臓科、腎臓科、感染免疫・アレルギー科、血液・腫瘍科、遺伝科、循環器科、神経科、精神科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、小児歯科、集中治療科、救急診療科、外傷診療科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科</p>						
平均在院日数：12.6日 (29年度)			病床稼働率：81.1% (H29年度)			
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	精神	在宅医療
医療	救急	小児	周産期	災害		
<p>病院の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合周産期母子医療センター」を開設しNICU30床、GUC48床を備え、さいたま赤十字病院の産婦人科と当センター新生児科の連携により運営しています。 「小児救命救急センター」の指定を受け小児集中治療室を設置し、術後の管理や重篤な救急疾患等に対応しています。 「小児がん拠点病院」として無菌室4床、準無菌室4床を備え、全国で最も多くの小児がんの患者さんを受入れています。 						

特徴的な診療機能	<ul style="list-style-type: none"> ・重症仮死児など生後直後から治療が必要なハイリスク新生児は、当センター所有の新生児ドクターカーにより県内各地へ迎え搬送を行い、初期治療を行いながらNICUへ入院させ、高度新生児集中治療を行います。 ・当センターを基軸とする埼玉県遠隔胎児診断支援システムは、県内産科医療機関とネットワークを介して、胎児診断の遠隔支援を行います。 ・隣接するさいたま赤十字病院の協力の下、ドクターカーを出動させ救急診療科医師を救急現場に派遣し、早期の医療介入を行います。
特徴的な付加機能施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナルド マクドナルド ハウス さいたま 入院中の患者さんのご家族が利用できる宿泊施設を病院と同じ建物内に備え、第二のわが家として闘病中の患者さんとそのご家族を支えています。開設以来、大変多くの方にご利用頂いています。 ・けやき特別支援学校 当センターに入院している小中学生が体調や治療に合わせ、普段と変わらない学習を受けられる体制を整えています。高校生に対する学習の体制・支援も開始しました。
特徴的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待対応医療ネットワーク事業 国庫補助事業である「児童虐待対応医療ネットワーク事業」に埼玉県がエントリーし、H28年度より当センターが事業を受託しています。院内ではH15年に「小児虐待対応チーム」を立ち上げ、埼玉県内の虐待に精通している医師や児童相談所職員等の協力を得て、不適切な養育の疑いがある児童や養育支援が必要な家庭を対象に活動しています。H29年度の取扱件数は221件、児童相談所への通告件数は33件です。これはH28年度と比較し、3倍に増加しています。
特徴的な診療科	<ul style="list-style-type: none"> ・保健発達部門 医療の提供以外にも子どもの成長と発達に必要な保健・発達支援を行っており、教育との連携も図っています。予防接種外来・精神保健外来・遺伝相談外来・発達外来・発達支援があります。
主な紹介元医療機関	<p>H29年度実績 1,623施設 (内 さいたま市 385施設)</p>

<p>当病院の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新生児に対する高度医療をはじめ、一般の医療機関では対応困難な小児の受入れを行う小児専門医療機関であり、県内小児医療の「最後の砦」という使命感を持って高度・専門医療を提供するとともに、地域医療への貢献に努めています。 • 総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん拠点病院の指定を受け、幅広く小児医療を提供しています。 • 先進医療への取り組み がんゲノム医療では連携病院の指定を受けました。移植医療は生体肝移植の H31 年度中の実施に向け準備中であり、CAR-T 療法は H31 年度中の実施を目指し調整中であります。 • 臨床研究の推進 臨床研究部は文科省の研究機関として指定されています。多方面からの疾患へのアプローチにより、迅速且つ一層の診断精度の向上を目指しています。 • 災害拠点病院の指定 さいたま赤十字病院と連携して患者受入れを行うとともに、DMAT の準備を進め、H30 年度の指定を目指しています。
<p>当病院の未来像</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 高度医療の推進 がんゲノム医療、移植医療などの先進医療をはじめ、高度な小児急性期医療を提供していきます。 • 移行期医療の総合的な支援機能 小児慢性特定疾病患児の成人期医療への移行に関して、患者の自立支援を含めた総合的な支援を行うためのネットワークを構築していきます。 • 人材育成（小児科専門医、県内医療機関への人材供給） 埼玉県総合医局機構・地域医療教育センターと連携しながら、小児科専門医育成の基幹病院としての体制を整え、県内医療機関等へ人材供給を行っていきます。
<p>市民の皆さんへメッセージ</p>	<p>当センターは埼玉県における唯一の三次の小児専門医療施設として、質が高く皆様に信頼される医療の提供を目指しています。医療スタッフは常に発育・発達段階にある子どもの目線に立ち、良質な医療の提供に努めています。</p> <p>「みんなで病院を育てる会」は患者ご家族から直接意見を聞くなど、より良い病院作りを行う場として開催しています。</p> <p>当センターには患者さんからの相談をお受けする「地域連携・相談支援センター」があります。窓口にはスタッフを常時配置してお</p>

	り、お子さんの治療のこと、兄弟のこと、福祉制度のことなど様々な分野の相談をお受けしています。ぜひご利用ください。
その他	受診される際は公共交通機関での来院をお願いします。 お車で来院される場合は時間に余裕を持ってお越しください。
記載内容に関する 問い合わせ先	埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター 電話番号：048-601-2234

特徴的な医療機能	救命救急機能 脳卒中、心疾患、外傷などの救急患者の受け入れ体制を整備し、迅速・適切に対応するため高度な救命救急機能の充実を図ります。
特徴的な医療機能	小児救急機能 小児救急拠点病院に向けて夜間救急を含む小児救急患者に適切な対応を行います。
特徴的な医療機能	周産期医療 地域周産期母子医療センターとしての認定に向けてNICUやLDRの整備に努め、周産期救急やハイリスク分娩などに適切に対応します。
特徴的な医療機能	がん対策 地域がん診療連携拠点病院の指定に向けて、外科手術、化学療法、放射線治療等がんに対する集学的治療を提供するとともに、低侵襲治療に取り組みます。チーム医療も推進し、総合病院として合併症を持ったがん患者に対する医療に適切に対応します。
特徴的な医療機能	災害拠点病院としての機能 BCPに基づき免震構造による建物を建設し、自然エネルギーを活用した水・電気等のライフラインを確保するとともに、敷地内に医療関係者の宿舎を整備して災害時における要員の確保を図り、災害拠点病院として県民の安心・安全の確保に努めます。
特徴的な医療機能	予防・健康増進機能 本学スポーツ健康科学部・スポーツロジセンター等と連携し、病気になる前の予防対策としての健康増進やロコモティブ対策に取り組みます。
主な紹介元医療機関	紹介率、逆紹介率 70%目標
主な紹介先医療機関	
当該病院の現状	
当該病院の未来像	<p>新病院は、さいたま市民を始め広く埼玉県民の期待に応えるため、最新の医療設備と医療技術による高度な医療の提供を行い、地域医療機関とも十分な連携をとるとともに、災害時の拠点施設としても十分な機能を備えた地域の基幹病院として広くさいたま市民・埼玉県民に親しまれ、信頼される病院を目指しています。</p> <p>また、埼玉県からの要請に基づき、県内医師不足地域への医師派遣などを条件として病院整備計画に応募したことから、医師派遣に協力していく所存です。</p>

<p>市民の皆さんへ メッセージ</p>	<p>順天堂は、医学部附属6病院合計で総病床数3,418床を有し、日本最大規模の強固なネットワークを形成しています。附属6病院は、先進医療、地域医療、高齢者医療、精神医療、がん治療など、国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発展させつつ、総合的に秀でた医療機関として、全国そして国際レベルでの医療の質向上に努めています。</p> <p>こうした医療水準の高さと優れた病院経営の実績が評価され、平成27年3月に新病院の整備計画を埼玉県から認められました。</p> <p>さいたま市浦和美園の地に新病院を開設することとなれば7番目の附属病院として、更なるネットワークの強化を図りながら、地域医療機関とも連携を図るとともに、地域医療の質を向上させ、さいたま市民を始め広く埼玉県民の方々が安心して質の高い医療を受けることが出来る病院を目指していく所存です。</p>										
<p>その他</p>	<p>■施設計画コンセプト</p> <p>(1)「機能性・快適性」：安心、快適に医療を受けられるアメニティの高い環境づくりとスタッフが連携しやすい院内配置とすることにより、医療機能を最大限に発揮できる施設とします。</p> <p>(2)「地域貢献・街なみ配慮」：地域医療の人材育成機能の設置や周辺街なみに配慮した外観デザインなど地域の核となり親しみがもてる施設とします。</p> <p>(3)「経済性・環境配慮」：エネルギー消費を抑え、地球環境に配慮したエコ・ホスピタルを実現します。</p> <p>(4)「安全性・防災機能」：免震構造の採用や自立したライフラインの確保など、災害時においても医療が継続できる施設とします。</p> <p>■医療従事者数（予定）</p> <table border="1" data-bbox="523 1227 895 1469"> <tr> <td>医師</td> <td>220名</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>830名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>150名</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,270名</td> </tr> </table> <p>■大学院の設置</p> <p>大学院医学研究科（さいたまキャンパス）の開設 入学定員60名（総定員240名）</p>	医師	220名	看護師	830名	その他	150名	事務職員	70名	合計	1,270名
医師	220名										
看護師	830名										
その他	150名										
事務職員	70名										
合計	1,270名										

<p>記載内容に関する 問い合わせ先</p>	<p>学校法人順天堂 総務局 企画調査室 電話番号：03-3813-3111</p>
----------------------------	--

病院説明書

病院名	医療法人社団 医鳳会 さいたま岩槻病院					
所在地	さいたま市 岩槻 区 慈恩寺 75 番地					
病床数：						
現在（2018年）	一般病床		療養病床	合計病床数		
	90 床		床	床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	30 床	60 床	床			
↓						
2025年	一般病床			合計病床数		
	90 床			床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	30 床	60 床	床			
<p>当院は脳神経外科を主とした急性期病床 30 床と脳血管・運動器のリハビリテーションを実施する回復期リハビリテーション病棟を有し急性期から回復期の患者さんに医療提供を行っております。</p>						
診療科目：合計 5 科（脳神経外科・整形外科・内科・外科・リハビリテーション科）						
平均在院日数： 16.3 日			病床稼働率： 80.7 %			
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	精神	在宅医療
医療	救急	小児	周産期	災害		
病院の特徴：						
救急告示病院として脳卒中を主とした救急医療に貢献できるよう SSN に参加しています。						
回復期リハビリテーション病棟は急性期治療後のリハビリ提供ならびに近隣の医療機関とも連携して回復期リハビリを必要とする患者さんの受入れを行っています。						
特徴的な 脳神経外科	脳外科専門医が常勤で 3 名おり、非常勤医師を含め 365 日 24 時間の脳外科対応が可能となっております。					
特徴的な 外来診療	脳外科・整形外科・内科・外科・リハビリ科を標榜しており、地域の患者さんがかかりつけ医として利用できるような幅広い医療が提供できるよう整備を進めております。 来年度は健診業務も開始予定となっております。					
特徴的な						

主な紹介元医療機関	獨協医大埼玉医療センター	秀和総合病院	春日部市立病院
主な紹介先医療機関	丸山記念総合病院	さいたま記念病院	秀和総合病院
当病院の現状	<p>本年4月に新規開院いたしました。</p> <p>現在、病床稼働率は8割となり、救急医療に貢献できるよう9月に埼玉県救急告示病院として認定をいただきました。</p> <p>脳神経外科専門医による24時間急性期脳卒中治療ができる体制となっております。</p> <p>当院所在の医療圏は救急医療を担う医療機関が少ない地域のため、近隣の医療機関と連携して専門性を生かした医療を提供しています。</p>		
当病院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況を踏まえ、脳神経外科以外の診療科も対応できるよう内科等の専門医を増員し、他院で行われた超急性期治療後の患者さんを受入れられるよう整備いたします。 ・当法人グループは在宅医療の提供も行っておりますので、回復期リハビリ病棟から在宅へスムーズに移行できるよう整備し、在宅復帰が困難な場合は連携先医療機関、施設へ紹介していきます。 		
市民の皆さんへメッセージ	<p>当院は脳神経外科を主とした医療を継続・充実していきます。</p> <p>急性期から回復期、在宅まで幅広い医療を提供します。</p>		
その他			

記載内容に関する 問い合わせ先	さいたま岩槻病院 事務局 電話番号：048-793-2011
--------------------	-----------------------------------

病院説明書

病院名	社会福祉法人 桜楓会 医療型障害児入所施設 カリヨンの杜					
所在地	さいたま市 岩槻区 馬込2100					
病床数：						
現在（2018年）	一般病床		療養病床	合計病床数		
	40床		20床	60床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	床	床	床			
↓						
2025年	一般病床			合計病床数		
	床			床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	床	床	床			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>現在、障害児（重心、超重心）一般床40を運営しています。 長期入所28床、レスパイト用ショート12床です。</p> </div>						
診療科目：合計3科（小児、内科、リハビリテーション）						
平均在院日数：36.7日			病床稼働率：37.5%			
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	精神	在宅医療
医療	救急	小児	周産期	災害		
病院の特徴：						
<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児の在宅での生活を医療面で支えます。 ・ショートステイでご家族を支えます。 ・県立小児医療センターとの連携をしっかりとっています。 						
特徴的な						
特徴的な						
特徴的な						
主な紹介元医療機関		県立小児	自治医大	埼玉医大		
主な紹介先医療機関		県立小児	自治医大			

当病院の現状	<p>本年4月の開所以来、小児科、内科を中心に外来児数は順調に増加しています。特別短期入所（4名/日）は4、5月には定数を超える利用申し込みによりお断りする日もありましたが、現在はほぼご要望にお応えできる状況です。短期入所（6名/日）ご家族のレスパイトにお応えできるよう、徐々に一日当たりの利用児数を増やすよう努力しています。長期入所は児童相談所より受け入れを進めています。現在12床稼働中です。その他、外来を利用している児に関しては、緊急の医療入院も受け入れております。</p>
当病院の未来像	<p>外来機能の強化、特にリハビリの充実を進めていきます。短期入所のご希望がまだまだ多数あるので、応えられるよう1日当たりの利用者を増やし、早く12床稼働できるようにします。長期入所28床のうち25床は入所児にあて、3床は緊急入院に備えたいと考えています。また、障害者療養床20床の利用方法を検討し、開設するタイミングを計っています。</p>
市民の皆さんへメッセージ	<p>近隣の高度医療を担う病院と小児科の医院（在宅で過ごす）の中間施設として、地域に根ざした運営を心掛けていきます。</p>
その他	

<p>記載内容に関する 問い合わせ先</p>	<p>カリヨンの杜 電話番号：048-797-6915</p>
----------------------------	-------------------------------------

病院説明書

病院名	医療法人財団 新生会 大宮共立病院					
所在地	さいたま市見沼区片柳 1550					
病床数：						
現在（2018年）	一般病床		療養病床	合計病床数		
	96床		202床	298床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	床	52床	246床			
↓						
2025年	一般病床		療養病床	合計病床数		
	95床		203床	298床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	床	100床	208床			
<p>〔 当院は現在、医療療養病棟92床、特殊疾患病棟96床、回復期リハビリテーション病棟52床、介護療養病棟58床を有しております。将来的には、回復期病床を充実、拡大し、介護療養病棟を転換する予定です。 〕</p>						
診療科目：合計 7 科（ 内科、神経内科、精神科、皮膚科、リハビリテーション科、歯科、口腔外科 ）						
平均在院日数： 171.4 日		病床稼働率： 90.9 %				
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	精神	在宅医療
医療	救急	小児	周産期	災害		
<p>病院の特徴：院内に介護医療院114床、介護老人保健施設52床、人間ドック施設(1日定員70人)、同一敷地内に特別養護老人ホーム100床、ケアハウスの他、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護、通所介護、隣接地に老人保健施設100床、通所リハビリの各事業を併設しており、それぞれを有機的に結びつけることで、包括的な高齢者医療を行っています。具体的には、高齢者の予防医学(指導)、診断、治療、ケア、リハビリテーションの総合的提供を実践しております。</p>						
特徴的な診療科 リハビリテーション科	<p>リハビリ専門医の他に、理学療法士26名、作業療法士20名、言語聴覚療法士6名がおり、亜急性期・回復期を中心に、高齢者のADL改善とQOL向上を目指し、積極的なリハビリテーションを展開しております。</p>					
特徴的な施設 人間ドック	<p>地域の予防医学向上に貢献するため、院内に独立した人間ドック施設を有しており、年間18,000名以上の受診者がおります。</p>					
特徴的なスタッフ	<p>管理栄養士が7名おり、栄養指導の他、入院患者の栄養マネジメント、低栄養リスク改善に取り組んでおります。 また、歯科衛生士が4名おり、入院患者の口腔衛生管理を積極的に行っております。更に、歯科口腔外科医師、リハビリテーション科と連携し、摂食機能改善にも取り組んでおります。</p>					

主な紹介元医療機関	さいたま市立病院	彩の国東大宮メディカルセンター	さいたま赤十字病院
主な紹介先医療機関	さいたま市立病院	自治医大さいたま医療センター	さいたま赤十字病院
当病院の現状	<p>当院は、開設以来「信頼の医療とこちよいい療養の実践」を基本理念に、総合的高齢者医療施設として、地域医療に貢献することを基本方針としております。本年5月に、将来の回復期リハビリテーション病棟2病棟の編成に向け、回復期病床を4床増床しました。また、7月に、将来の介護療養病床の廃止に向け、介護療養病棟2病棟を介護医療院に転換しました。</p> <p>年間外来患者数は約67,000人、新規入院患者は月間約60人、また、常時150名～200人の患者がリハビリテーションを行っております。入院の原因疾患は、脳血管障害が最も多く、肺炎、認知症、心疾患、高血圧、糖尿病等多岐にわたり、高齢者に特徴的な多臓器疾患を有する患者が多いため、内科、リハビリテーション科、神経内科、脳神経外科、精神科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科の医師が常時連携を取りながら診療しております。また、特殊疾患病棟を有しているため、パーキンソン病等の神経難病や重度の身体障害者も多い状況です。</p> <p>回復期と慢性期を中心に運営しておりますが、地域包括ケアシステムに向け、専任の社会福祉士と退院支援看護師が連携し、患者さまの在宅復帰に積極的に取り組んでおり、在宅復帰率は、回復期リハビリテーション病棟78.4%、医療療養病棟68.9%となっております。</p>		
当病院の未来像	<p>リハビリ専門医及びリハビリスタッフ、看護職員を徐々に増員しております。</p> <p>リハビリテーション棟を増築し、回復期病床を増床する予定です。</p> <p>また、増築を機に、既存病棟の改修を行い、介護療養病床の転換及び医療療養病床の療養環境の改善も行う予定です。</p> <p>介護療養病床の転換は、主に回復期病床に転換し、関連施設も含め多機能で総合的な高齢者医療施設として、地域社会に貢献してまいります。</p>		
市民の皆さんへメッセージ	<p>回復期リハビリテーション病棟を中心とした亜急性期医療から、緩和ケアの終末期医療まで受入れ可能な総合的高齢者医療施設を目指しております。</p>		
その他	<p>さいたま市からの受託事業の、認知症初期集中支援推進事業業務及びさいたま市地域リハビリテーション活動支援業務、在宅医療提供充実支援事業を行っております。</p>		
記載内容に関する問い合わせ先	<p>大宮共立病院 事務課 電話番号：048-686-7151</p>		

病院説明書

病院名	医療法人 慈弘会 岩槻中央病院					
所在地	さいたま市 岩槻区東岩槻2-2-20					
病床数：						
現在（2018年）	一般病床		療養病床	合計病床数		
	床		121床	121床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
床	床	床	121床			
↓						
2025年	一般病床			合計病床数		
	床			121床		
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床			
0床	0床	0床	121床			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>平成30年度の病床機能報告マニュアルで昨年度までは一般病棟15対1入院基本料で急性期病床を選択していましたが、4月の診療報酬改定で今年度当院の体制では、地域一般入院料3に変更となり、慢性期病床を選択しました。*療養病床37床・介護病床84床</p> </div>						
診療科目：合計 10科内科・外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線科・胃腸科・循環器科・こう門科)						
平均在院日数：療養33日・介護356日			病床稼働率：療養80%・介護71%			
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	精神	在宅医療
医療	救急	小児	周産期	災害		
病院の特徴：						
当院は「地域に密着した医療を提供する」ことを基本理念に、昭和53年に開院しました。以来、常に、地域の方々に細やかな医療サービスを提供できるように努力し、地域の方々に愛される病院を目指しています。						
特徴的な病床	急性期治療を終了し療養病床や施設を希望されるも、例えば胃瘻や痰の吸引等が必要な患者さんを医療療養型では医療ではないと断られ、施設では夜間の対応が難しいと断られ行き場のない方も受け入れています。また施設で状態が悪化し、手術等は不要で急性期病床で受け入れてもらえない患者さんも受け入れています。					
特徴的な						
特徴的な						
主な紹介元医療機関	地域の医療機関					
主な紹介先医療機関	丸山記念総合病院	秀和総合病院		さいたまメディカルセンタ		

			-
当病院の現状	<p>近年の高齢化への対応として、平成14年に介護保険適用の療養型病棟を整備し、併設されている介護老人福祉施設や近隣の介護事業者と共に地域医療・福祉の向上に取り組んでいます。</p> <p>現在は、一般病棟入院基本料（地域一般入院料3）を算定している37床の1病棟と、介護療養型医療施設2病棟84床の計121床を有するケアミックス型の病院です。</p> <p>職員の確保が大きな課題です。</p>		
当病院の未来像	<p>慢性期の病院として地域に密着し、長期的な治療、療養が必要な患者さんに、質の高い医療から介護の提供を目指します。</p> <p>病床の受け入れが可能であれば、療養が必要な患者さんの受け入れを積極的に行っていきたいです。</p>		
市民の皆さんへメッセージ	<p>当院の基本理念にある、「地域に密着した医療を提供する」を今後も続けていけるよう努めていきます。</p>		
その他			

記載内容に関する 問い合わせ先	<p>岩槻中央病院 電話番号：048-794-1144</p>
--------------------	-------------------------------------

病院説明書

病院名	医療法人有隣会 わかくさ病院			
所在地	さいたま市南区太田窪 1973-5			
病床数：				
現在（2017年）	一般病床	療養病床	合計病床数	
	29 床	床	29 床	
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床	
床	29 床	床	床	
↓				
2025 年	一般病床		合計病床数	
	29 床		29 床	
高度急性期病床	急性期病床	回復期病床	慢性期病床	
床	29 床	床	床	
〔 〕				
診療科目：合計	5 科（内科、循環器内科、消化器内科、小児科、皮膚科）			
平均在院日数：	20.4 日	病床稼働率：	82.8 %	
政策	がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病
医療	救急	小児	周産期	災害
精神 在宅医療				
病院の特徴：外来、病棟、訪問看護、ケアマネジャー等で多職種連携をとり、機能強化型在宅療養支援病院として地域医療に貢献しています。				
特徴的な診療	内科疾患はもちろん他科疾患まで幅広く総合診療を行っています。訪問診療ではIVH、ポート、胃瘻、在宅酸素、人工呼吸器等医療依存度の高い患者様もサポートできます。			
特徴的な病棟	退院後の患者様やご家族の生活を考え、言葉かけや指導を行っています。			
特徴的な栄養科	管理栄養士 2 名、栄養士 5 名で患者様の容体に合わせた栄養管理・食事指導を行なっています。			
主な紹介元医療機関	ハーモニークリニック	デュエット内科クリニック	さいたま市立病院	
主な紹介先医療機関	さいたま市立病院	埼玉メディカルセンター	さいたま赤十字病院	

当病院の現状	<p>当病院は『徳は孤ならず必ず隣有り』の理念のもと地域医療に貢献しています。</p> <p>地域のかかりつけ医として一次医療機関の役割を持ち、必要に応じて速やかに近隣の専門性の高い病院へ紹介。患者様が安心できる医療を提供するために地域医療連携にも尽力しています。</p> <p>当院のホームページでは在宅医療相談窓口、小児科予防接種相談窓口を設けています。</p>
当病院の未来像	<p>当院では進歩する医療に追随すべく、先端の医療機器も定期的に導入。</p> <p>また平成32年には設立50周年を迎えることから、新病院設立も視野に入れ、より質の高い医療・介護の提供を目指しています。</p>
市民の皆さんへメッセージ	<p>地域のかかりつけ医として、外来・入院・在宅医療を通じて総合的にサポートしています。小児科では、親子2代で通院するなど長年にわたり子供たちに寄り添った診療を行っています。南浦和地区を中心に通院困難な高齢者や認知症、がん手術後の回復期の患者、終末期の看取りまでを訪問診療、訪問看護、ケアマネジャー等と連携をとりながら対応しています。</p> <p>ホームページ：http://www.wakakusa-hospital.com/</p>
その他	

<p>記載内容に関する 問い合わせ先</p>	<p>医療法人有隣会 事務局 電話番号：048-885-5307</p>
----------------------------	--

さいたま市地域医療構想調整会議

埼玉県立小児医療センター



病院長 小川 潔

病院の沿革

- 1983年4月1日 埼玉県立小児医療センター開院
埼玉県岩槻市(現さいたま市岩槻区)、病床数 189床
- 1884年4月1日 病床数 250床に増床
- 1985年4月1日 病床数 300床に増床
- 1998年4月1日 保健発達棟開設
- 2004年5月17日 病院機能評価の認定
- 2009年6月5日 病院機能評価の認定 (ver.5.0)
- 2010年4月1日 地域周産期母子医療センター認定
- 2013年2月8日 小児がん拠点病院の指定
- 2013年9月24日 電子カルテシステム稼働開始
- 2014年4月1日 DPC運用開始
- 2016年12月27日 **新病院へ移転** 病床数 316床に増床
総合周産期母子医療センターの指定
小児救命救急センター、PICU開設

病院の概要



所在地：さいたま市中央区新都心1番地2

敷地面積：10,031m² 延べ面積：65,447m²

構造：鉄筋コンクリート地下1階／地上13階（免震構造）

病床数：**316床**

（PICU 14床、HCU 20床、NICU 30床、GCU 42床）

診療科：29科

職員数：常勤職員 777名 非常勤職員 84名

病院の概要

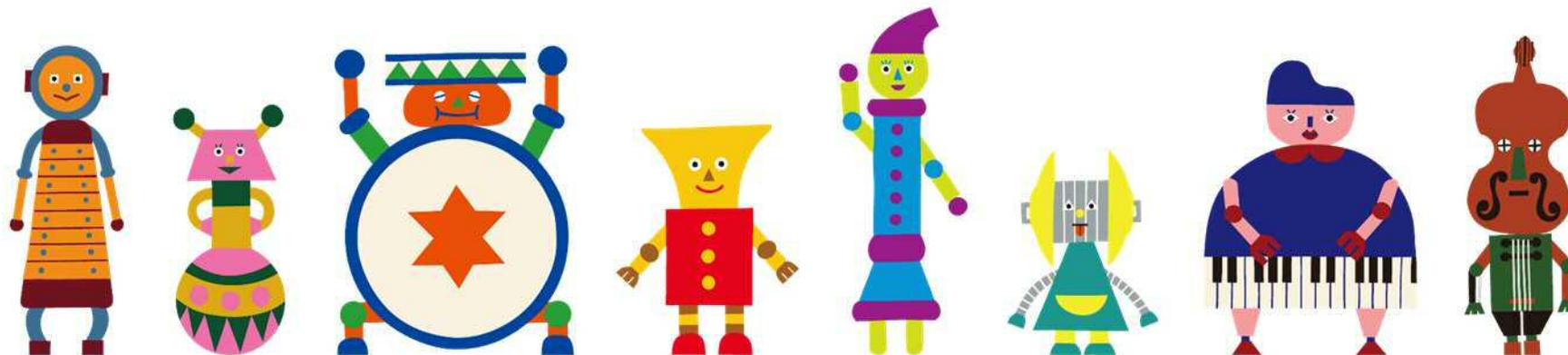


- 小児専門病院
- 地域医療支援病院
- 総合周産期母子医療センター（県内2施設）
- 小児がん拠点病院（全国15施設、関東4施設）
- 小児救命救急センター（県内2施設）
- 救急指定
- 保険医療機関

病院の理念

For the future, for the children.

—子どもたちの未来は私たちの未来—



当センターの使命

- ① 地域医療機関の後方支援病院として、**高度医療**、医療資源を必要とする医療、2次・3次**小児救急**、2次・3次小児保健、発達支援を提供し、県民の需要に応える。
- ② 代表的な小児総合医療機関として、小児医学、小児看護学、小児保健学、医療技術、小児医療行政の**進歩**に寄与する。
- ③ 医療に従事する者の**教育**に積極的に貢献する。

1. 高度専門医療の提供

○ 総合周産期母子医療センター

- さいたま赤十字病院産婦人科との一体的運用
- 新生児集中治療室(NICU)の増床(15→30床)
- 新生児治療回復室(GCU)の増床(27→42床)
- インターネットを介した胎児診断ネットワーク体制の確立
- 外科系の診療科がそろっていることが強み
- H29年度 1500g以下の低出生体重児 90例
 新生児期の心臓手術 42件、小児外科手術 46件
- 都内への母胎搬送 H28年度 50件からH29年度 4件へと大きく減少

1. 高度専門医療の提供

○ 小児救命救急センター

- 小児集中治療室(PICU)の新設(14床)
- 小児高度治療室(HCU)の新設(20床)
- 小児集中治療科および救急科の設置
- さいたま赤十字病院救命救急科との連携
ドクターカーの協同運用
- 救急指定の取得
- H29年度 救急患者受け入れ 5021人, 救急車 2281件
ドクターカー出動 77件, 救急応需率 94%
- 外傷を中心とした外科系疾患が中心
- 虐待症例の増加 H29年度対応 221件(児相通告 33件)

1. 高度専門医療の提供

○ 小児がん拠点病院

- 無菌病室の増床(2→4床)、準無菌室4床設置
- がんゲノム医療連携病院の指定
- H29年度新患 白血病 28例, 神経芽腫 7例,
固形腫瘍 64例, 脳腫瘍 18例など
造血幹細胞移植 29例
- 小児がん相談支援センター
- 家族滞在施設(マクドナルドハウス)設置

1. 高度専門医療の提供



○ 小児感染症への対応

- 感染対応個室(前室付き、トイレ設置、陰圧)18床
- 第二種感染症に対応

○ 成人に達した患者さんの移行期医療

- 単独型小児病院から総合病院併設型小児病院へ

2. 最新医療への対応

○ 内視鏡手術室

- 傷も小さく低侵襲である内視鏡治療は適応疾患も拡大して著しく増加
- 内視鏡手術に対応した専用の手術室を設置

○ ハイブリッド手術室

- 手術室に放射線透視装置を設置
- 通常の定型的手術とカテーテル治療を統合して行うことが可能となる



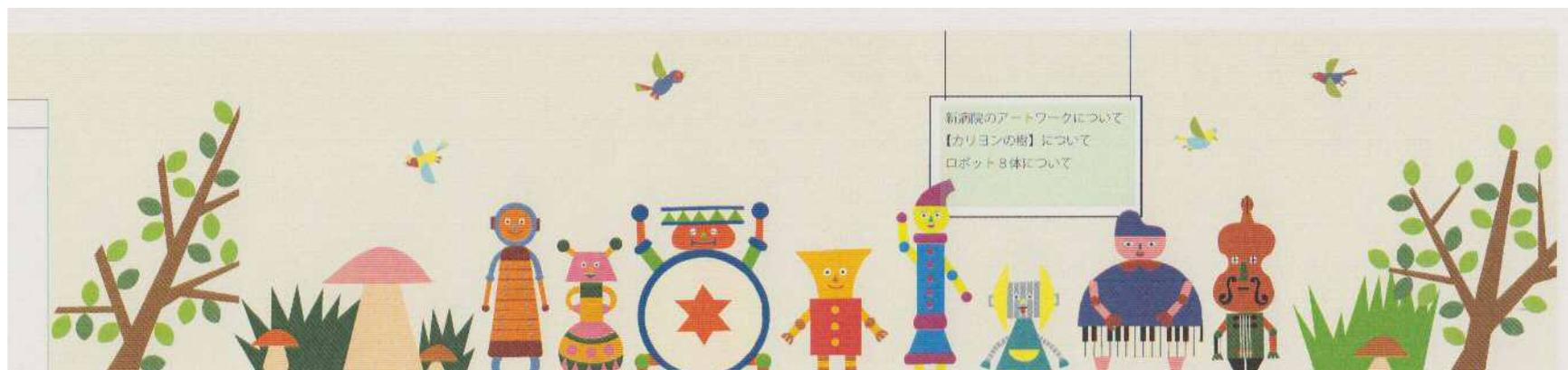
主な診療実績(平成29年度)

- 病床利用率 81.1%
- 1日平均患者数 入院 256人、外来 571人
- 新患者数 11,075人、延患者数 122,610人
- 入院診療収益 93,977円／人／日
- 救急患者数 5,021人、救急車受入 2,005台
- 1500g未満の低出生体重児 90例
- 手術 3,315件
 - 小児外科 781件(内視鏡手術 347件)、心臓外科 194件
 - 脳外科 152件、整形外科 390件、形成外科 727件
 - 泌尿器科 406件、耳鼻科 350件、眼科 217件など

3. 快適な療養環境の提供ー広く明るい病室



3. 快適な療養環境の提供ーキャラクターの配置



4. 付加機能との一体的な連携

○ けやき特別支援学校

- ・ プール、体育館設置

○ ドナルドマクドナルドハウスさいたま

- ・ 患者さんのご家族が利用できる宿泊施設 1泊1000円



5. その他

○ 小児臨床研究部門の設置

- 臨床研究支援室、(動物)実験管理室、
- 文部科学省研究機関登録

○ 小児科専門医制度基幹施設

- 県内医療機関との連携
- 各領域も多くの基幹施設と連携

○ 地域との連携強化

- 在宅小児医療支援の充実
- 遠隔胎児診断システム
- 児童虐待対応医療ネットワークへの参画

6. 今後の取り組み

- 高度医療の推進

- 1) がんゲノム医療連携病院

- 東京大学医学部附属病院を中核病院

- 臨床検査部門のISO15189取得に向けた準備

- 2) CAR-T療法指定機関の指定をめざす

- 3) 移植医療(肝臓)の準備

- 移行期医療の支援機能の充実

- 1) 移行期医療支援センターの設置

- 臨床研究の推進

- 人材育成

- 災害拠点病院の指定に向けて準備

届出有床診療所の概要

埼玉県保健医療部医療整備課

1 趣 旨

第5次医療法改正により診療所の一般病床が規制の対象となり、診療所が病床を設置する場合は、許可が必要となった。

ただし、医療法第7条第3項及び医療法施行規則第1条の14第7項第1号から第3号の規定により、地域包括システムの構築のために必要な病床（在宅療養支援診療所、看取り機能など）、へき地医療、小児医療、周産期医療、救急医療など地域医療に不可欠な医療を提供する診療所として、都道府県医療審議会の意見を聴いて、都道府県知事が認める場合は、例外的に届出により一般病床を設置することが可能。

2 届出有床診療所の審査基準

審査基準 1

当該診療所が、以下に掲げる区分ごとの適合基準に適合すること。

区分	適合基準
医療法第30条の7第2項第2号に掲げる医療の提供の推進のために必要な診療所その他の地域包括システムの構築のために必要な診療所	次のいずれかの機能を有し、又は有することが見込まれること。 ①診療報酬上の在宅療養支援診療所の施設基準に係る届出を行っていること又は行うことが見込まれること。 ②急変時の入院患者の受入機能 ③患者からの電話等による問合せに対し、常時対応できる機能 ④他の急性期医療を担う病院の一般病棟からの受入れを行う機能 ⑤当該診療所内において看取りを行う機能 ⑥全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔又は伝達麻酔（手術を実施した場合に限る。）を実施する（分娩において実施する場合を除く。）機能 ⑦病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受渡機能
小児医療の推進に必要な診療所	次のいずれの事項にも適合し、又は適合することが見込まれること。 1 小児科又は小児外科を標榜すること 2 当該診療所において、専ら小児科又は小児外科を担当する医師が常時1人以上配置されていること
周産期医療の推進に必要な診療所	次のいずれの事項にも適合し、又は適合することが見込まれること。 1 産科又は産婦人科を標榜すること 2 分娩を取り扱うこと 3 当該診療所において、専ら産科又は産婦人科を担当する医師が常時1人以上配置されていること

救急医療の推進に必要な診療所

救急病院等を定める省令に基づき認定され、又は認定されることが見込まれること。

審査基準 2

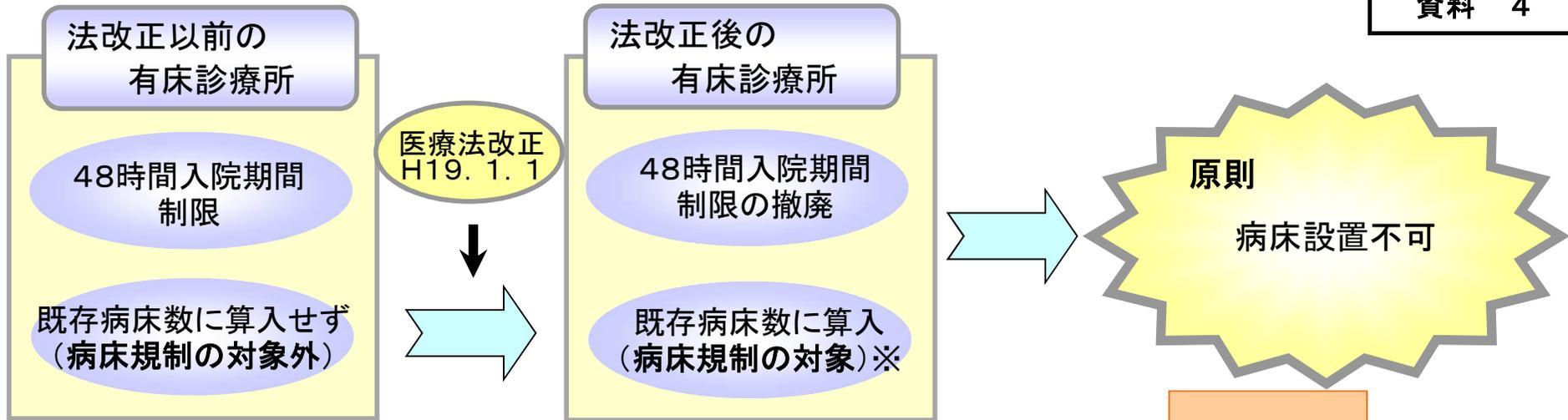
当該診療所の有する構造設備が、医療法（昭和23年法律第205号）及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）に規定する構造設備基準に適合すること。

3 これまでに承認された届出有床診療所

番号	医療圏	所在地	区分	診療所名称	病床数	使用許可年	備考
1	南部	川口市	救急・在宅	青木中央クリニック	19	H25.1	
2	東部	草加市	周産期	水上レディースクリニック	10	H22.5	
3	さいたま	さいたま市	救急	ほしあい眼科	2	H23.4	
4	さいたま	さいたま市	周産期	かしわざき産婦人科	19	H24.3	
5	西部	狭山市	周産期	金村産婦人科クリニック	19	H20.7	
6	西部	所沢市	周産期	松田母子クリニック	19	H23.3	
7	西部	入間市	周産期	マキレディースクリニック	15	H23.8	
8	秩父	秩父市	周産期	岩田産婦人科医院	15	H25.7	
9	利根	久喜市	救急	しらすきクリニック	19	H28.3	
10	南西部	朝霞市	周産期	あさか産婦人科	19	H28.5	
11	南部	川口市	周産期	高橋レディースクリニック	2	H28.4	
12	県央	上尾市	周産期	ひらしま産婦人科	19	H29.6	
13	利根	久喜市	救急	西山救急クリニック	10	H29.8	
14	県央	上尾市	小児	さくらクリニック	2	H30.1	
15	利根	杉戸町	在宅	埼玉杉戸診療所	19	H30.3	
16	県央	上尾市	周産期	葵ウイメンズクリニック	10	H31 予定	
17	西部	日高市	周産期	太田マタニティクリニック	12	H29.12	
18	東部	草加市	救急	草加松原整形外科医院	19	H30 予定	
19	川越比企	川越市	在宅	傍島外科	19	H30.1	

診療所の病床設置について

資料 4



例外措置

- ア 医療法第30条の7第2項第2号に掲げる医療の提供の推進のために必要な診療所その他の地域包括システムの構築のために必要な診療所
- イ へき地、小児医療、周産期医療、救急医療その他の地域において良質かつ適切な医療が提供されるために特に必要な診療所として、都道府県医療審議会の意見を聴いて、都道府県知事が認める診療所

一般病床の設置が可能(届出制)

事前協議計画の概要書

1 病院の名称：（仮）前産婦人科

所在地：さいたま市南区根岸5-24-5

所在二次保健医療圏：さいたま保健医療圏

2 開設者の名称：前 和幸

3 病院の現状：新規開業につき既存の病床はありません

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
計				

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床

4 開設等の目的、必要性

- ・ H29年の統計において、さいたま市南区では年間1,713名の出生があった。これは、さいたま市内10区の中で最も多い出生の数である。
- ・ しかし現在南区において分娩を取り扱う医療機関は0軒であり、さいたま市内の他区や近隣の川口市・蕨市・戸田市などに患者が通い分娩をしている事が推測される。
- ・ さいたま市全体では、H29年に10,668名の出生があったものの、そのうち市内の分娩件数の合計は6,778件であり、さいたま市内の患者の分娩は隣接市の医療機関によって大きく支えられているのが現状ではないかと考えます。
- ・ その為、さいたま市（特に南区）において分娩を扱う施設を新規に開設する事で安心して出産が出来る環境作り、地域医療に貢献できると考えます。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 19 床

医療機能*	病床機能 区分	病床 種別	入院基本料 特定入院料	病床数
周産期医療	急性期	一般	有床診療所入院基本料	19床
計	—	—	—	

病床数の根拠

- ・仮にさいたま市南区の約1,700名の出生の50%が当院で出産した場合、年間の分娩数は約850件、月間では約70件の分娩が見込まれます。
- ・70件/月の場合の内訳を考えると、切迫早産、悪阻を発症する患者が各10%程度、14名おり、軽症と超重症を除いた1/3程度計4床分は保険入院で常に埋まっている。
- ・1人5泊6日とした場合、 $70 \times 6 \div 30 = 14$ 床は分娩で使用し計18床必要だが、分娩には偏りがあり帝王切開では10日間程度の長期入院が必要であるため19床が必要です。
- ・実際にさいたま市内の個人施設において月70件前後の分娩を扱う施設が2施設あり、いずれも19床以上の病床を有する事からも、19床が必要であると考えます。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	m ²		所有・借地
取得予定	m ²		所有・借地
計	1152.52m ²	土地は地主所有	

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他 ()
概要	<p>地主様が4階建ての新築ビルを建設予定。</p> <p>そのうち2~4階部分を賃貸し産婦人科クリニック開設予定</p> <p>建物の延床面積：1247.48m² 賃貸部分の敷地面積：986.56m²</p>

(4) 医療従事者

職種	現在の人員 (人)			確保予定の人員 (人)		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師				1	1	0.25
看護師				5	3	1.5
その他				4		
計				10	4	1.75

確保状況・確保策、確保スケジュール

- ・非常勤医師については、既に1名の医師より勤務の内諾を頂いています。
- ・看護スタッフについては、以前一緒に仕事をした事のある方で、軸となるべき主任格の助産師が1名、こちらも目途がついております。
- ・その他職員につき、H31年の秋頃より順次求人活動を行い、H32年4月頃より採用、その後開院まで、育成・トレーニングを実施します。
- ・確保策としては、ハローワークや現地の各種求人誌、開設予定HPでの告知、現地立て看板を使用した告知等を実施する予定です。

(5) スケジュール

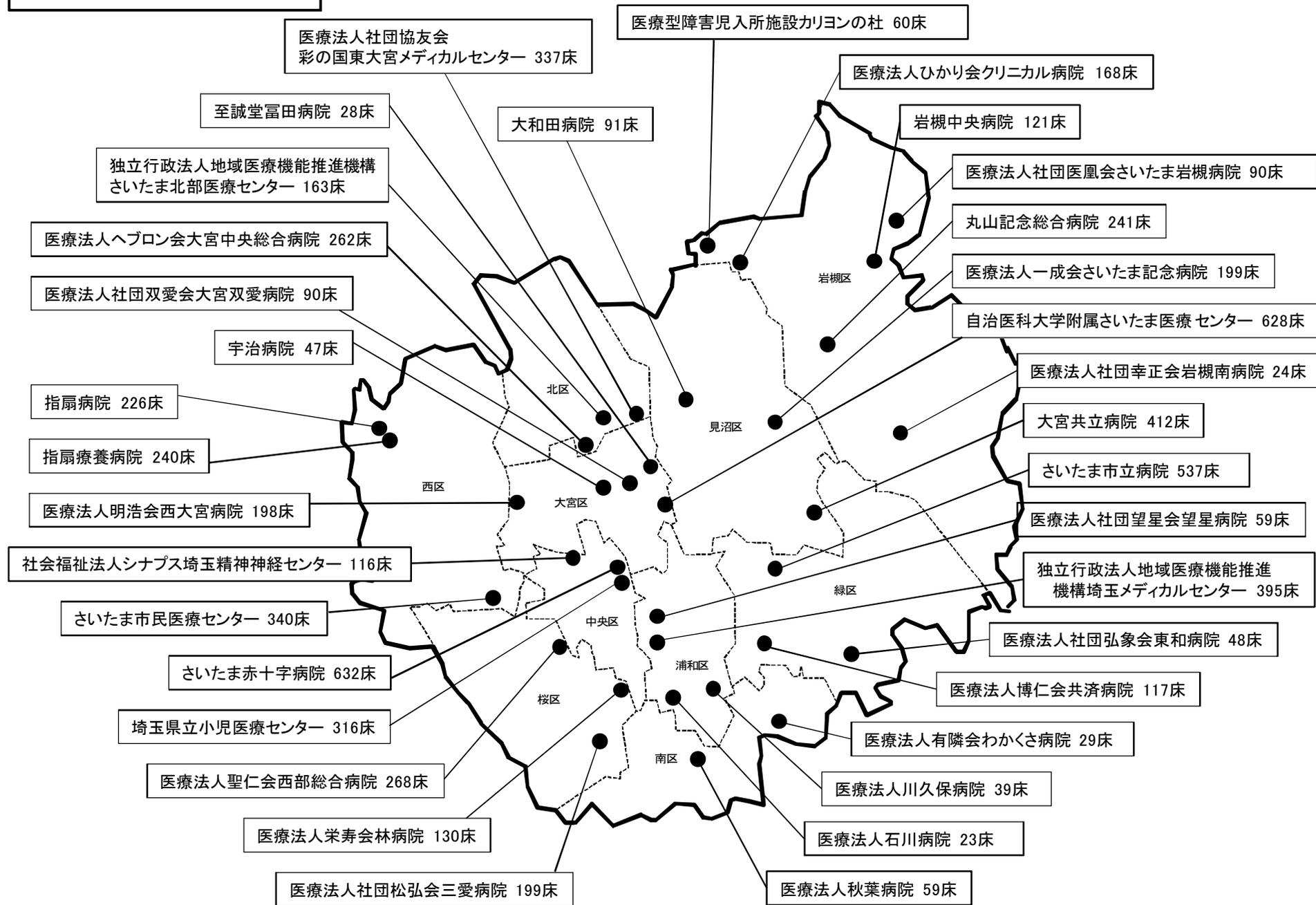
No.	項 目	計画年月	備 考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成31年3月	
2	建築（着工～竣工）	平成31年6月～平成32年2月（8か月）	
3	使用許可（医療法）	平成32年4月	
4	開設（増床）	平成32年6月	

開設予定地 さいたま市南区根岸5-24-5



さいたま保健医療圏

参考資料1



※一般病床及び療養病床の合計が20床以上の病院を記載

※医療機関名及び病床数は、埼玉県病院・救急診療所名簿（平成30年4月1日現在）を基に作成

H29年度病床機能報告結果

参考資料2

区域	医療機能	平成29年度 病床機能報告結果 (A)	平成29年度 定量基準分析結果 ※(B)	2025年 必要病床数 (C)	比較	
					A-C	B-C
南部	高度急性期	749	290	609	140	△319
	急性期	2,508	2,173	1,922	586	251
	回復期	302	1,114	1,623	△1,321	△509
	慢性期	802	729	871	△69	△142
	休棟・未報告等 計	91	146	-	-	-
		4,452	4,452	5,025	△573	△573
南西部	高度急性期	325	491	425	△100	66
	急性期	2,385	1,282	1,685	700	△403
	回復期	275	1,168	1,356	△1,081	△188
	慢性期	1,070	1,115	1,311	△241	△196
	休棟・未報告等 計	15	14	-	-	-
		4,070	4,070	4,777	△707	△707
東部	高度急性期	154	503	831	△677	△328
	急性期	4,313	2,848	2,783	1,530	65
	回復期	945	2,170	2,734	△1,789	△564
	慢性期	1,870	1,786	2,587	△717	△801
	休棟・未報告等 計	289	264	-	-	-
		7,571	7,571	8,935	△1,364	△1,364
さいたま	高度急性期	1,532	1,090	1,039	493	51
	急性期	3,515	2,954	2,770	745	184
	回復期	382	1,440	2,301	△1,919	△861
	慢性期	1,578	1,436	1,554	24	△118
	休棟・未報告等 計	129	216	-	-	-
		7,136	7,136	7,664	△528	△528
県央	高度急性期	415	232	344	71	△112
	急性期	1,793	1,407	1,273	520	134
	回復期	245	905	1,120	△875	△215
	慢性期	846	812	797	49	15
	休棟・未報告等 計	131	74	-	-	-
		3,430	3,430	3,534	△104	△104
川越比企	高度急性期	1,752	654	802	950	△148
	急性期	2,344	2,361	2,260	84	101
	回復期	997	1,988	2,518	△1,521	△530
	慢性期	1,848	1,905	2,072	△224	△167
	休棟・未報告等 計	363	396	-	-	-
		7,304	7,304	7,652	△348	△348
西部	高度急性期	786	421	694	92	△273
	急性期	2,914	2,232	2,249	665	△17
	回復期	843	1,897	2,370	△1,527	△473
	慢性期	2,534	2,542	2,638	△104	△96
	休棟・未報告等 計	363	348	-	-	-
		7,440	7,440	7,951	△511	△511
利根	高度急性期	232	223	426	△194	△203
	急性期	2,445	1,593	1,580	865	13
	回復期	502	1,396	1,448	△946	△52
	慢性期	1,080	1,023	1,176	△96	△153
	休棟・未報告等 計	251	275	-	-	-
		4,510	4,510	4,630	△120	△120
北部	高度急性期	420	140	327	93	△187
	急性期	2,133	1,580	1,258	875	322
	回復期	230	1,088	1,066	△836	22
	慢性期	1,033	1,052	791	242	261
	休棟・未報告等 計	123	79	-	-	-
		3,939	3,939	3,442	497	497
秩父	高度急性期	0	0	31	△31	△31
	急性期	352	248	174	178	74
	回復期	109	213	181	△72	32
	慢性期	352	352	214	138	138
	休棟・未報告等 計	17	17	-	-	-
		830	830	600	230	230
合計	高度急性期	6,365	4,044	5,528	837	△1,484
	急性期	24,702	18,678	17,954	6,748	724
	回復期	4,830	13,379	16,717	△11,887	△3,338
	慢性期	13,013	12,752	14,011	△998	△1,259
	休棟・未報告等 計	1,772	1,829	-	-	-
		50,682	50,682	54,210	△3,528	△3,528

※定量基準分析結果では、未分析病床については、便宜的に病床機能報告で報告のあった病床機能として集計。

**病床機能報告 定量基準分析結果（さいたま）
（平成29年度,平成28年度）**

埼玉県保健医療部保健医療政策課

平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【さいたま圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計				さいたま圏域				備考
			該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	17病棟	98人/日	167床	59.0%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	15病棟	327人/日	581床	56.3%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	56病棟	1,807人/日	2,356床	76.7%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	30病棟	729人/日	1,059床	68.9%	
	回復期/ハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	8病棟	333人/日	381床	87.4%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	4病棟	180人/日	192床	93.7%	
医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%	16病棟	669人/日	840床	79.6%		
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%	5病棟	225人/日	256床	88.0%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	8病棟	64人/日	138床	46.2%	
	産科の一般病棟	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	17病棟	229人/日	379床	60.5%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	7病棟	82人/日	204床	40.1%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	4病棟	85人/日	143床	59.3%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	0病棟	0人/日	0床		
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	1病棟	16人/日	22床	72.3%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	0病棟	0人/日	0床		

4機能区分	埼玉県計				さいたま圏域				各医療機関が報告した病床数(H29病床機能報告)	2025年の必要病床数(地域医療構想)
	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率		
高度急性期	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	47病棟	571人/日	1,090床	52.4%	1,532床	1,039床
急性期	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	78病棟	2,137人/日	2,900床	73.7%	3,515床	2,770床
回復期	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	38病棟	1,062人/日	1,440床	73.8%	382床	2,301床
慢性期	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	25病棟	1,074人/日	1,288床	83.4%	1,578床	1,554床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	5病棟	16人/日	119床	13.6%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	—	—	129床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	193病棟	4,860人/日	6,837床	71.1%	7,136床	7,664床

注：「合計等」欄の許可病床数の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある。

	埼玉県	さいたま
高度急性期	23床	0床
急性期	1,007床	54床
回復期	138床	0床
慢性期	1,251床	148床
休棟・未報告等	1,317床	97床
計	3,736床	299床

(参考) 未分析病床分(各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果【さいたま圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			さいたま圏域			備考
			該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	15病棟	119床	74.5%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	15病棟	612床	84.5%	
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	46病棟	1,942床	83.8%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	32病棟	1,239床	64.0%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	5病棟	262床	85.4%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	4病棟	192床	93.0%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	11病棟	511床	88.6%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	0病棟	0床			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	7病棟	163床	79.1%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	8病棟	157床	66.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	0病棟	0床		医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	723床	46.7%	4病棟	180床	53.8%	
		回復期	3病棟	87床	70.5%	0病棟	0床		
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	1病棟	22床	62.8%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	0病棟	0床		

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			さいたま圏域				
	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数 (H28病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	180病棟	4,282床	78.5%	37病棟	894床	82.2%	1,350床	1,039床
急性期 計	376病棟	15,083床	75.5%	59病棟	2,301床	80.1%	3,425床	2,770床
回復期 計	320病棟	12,792床	69.9%	37病棟	1,501床	67.7%	372床	2,301床
慢性期 計	209病棟	9,550床	88.7%	15病棟	703床	89.8%	1,552床	1,554床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床 休棟・病床機能報告に無回答の病床	27病棟	318床	14.4%	5病棟	78床	5.6%	—	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	153病棟	5,477床	77.2%	7,066床	7,664床

注：「合計等」欄の許可病床数（埼玉県計=42025床、さいたま圏域=5477床）の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある（埼玉県計=8347床、さいたま圏域=1589床）。

（参考）各医療機関の報告上の機能

（高度急性期：50床 急性期：439床 回復期：91床 慢性期：640床 未報告：369床）

平成28年度病床機能報告のデータから作成

平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり 入院患者数	基準該当 病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	
医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%		
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児 科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり 入院患者数	基準該当 病床数	病床稼働率	各医療機関が 報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の 必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

	埼玉県
高度急性期	23床
急性期	1,007床
回復期	138床
慢性期	1,251床
休棟・未報告等	1,317床
計	3,736床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	454人/日	733床	61.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,257人/日	2,852床	79.1%	
		急性期	292病棟	9,935人/日	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	6,511人/日	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,367人/日	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	1,814人/日	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,081人/日	6,837床	88.9%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	512人/日	587床	87.2%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	559人/日	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,052人/日	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	92人/日	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	337人/日	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	61人/日	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	62人/日	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	65人/日	99床	65.3%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病棟	3,362人/日	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病棟	11,386人/日	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病棟	8,939人/日	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病棟	8,472人/日	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	46人/日	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	32,205人/日	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。

埼玉県	
高度急性期	115床
急性期	2,497床
回復期	775床
慢性期	2,692床
休棟・未報告等	2,268床
計	8,347床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人			周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)	
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等				緩和ケア病棟 (放射線治療なし)	

具体的な機能に応じて区分線を引く

切り分け

機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、一般病棟 7 : 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A : 【手術】全身麻酔下手術
- B : 【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C : 【がん】悪性腫瘍手術
- D : 【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E : 【脳卒中】脳血管内手術
- F : 【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術
- G : 【救急】救急搬送診療料
- H : 【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I : 【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J : 【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線1で高度急性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU	一般病棟7:1(※)	一般病棟7:1以外(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	42.5%	1.9%	0.5%	2.2%	0.0%
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	21.8%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	16.1%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
	E	脳血管内手術	あり	あり	21.8%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	1.6%	1.0%	0.0%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	11.5%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表面・食道ペーシング法 ・非開胸的心マッサージ ・カウンターショック ・心膜穿刺 ・食道圧迫止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	64.4%	3.0%	1.0%	5.4%	0.0%
	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンポンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓 ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	48.3%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法 ・胸腔穿刺 ・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	43.7%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					89.7%	14.2%	4.2%	7.6%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

92.5%	16.8%	4.0%	6.4%	0.0%
-------	-------	------	------	------

（参考）平成28年度該当病床割合

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○一般病棟7：1において多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P：【重症度、医療・看護必要度】
基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。

区分線2で急性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の 一般病床 (※)	地域包括 ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	8.5%	5.7%	2.9%	19.6%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	18.0%	12.3%	1.4%	1.1%	0.0%
がん	M	放射線治療（レプト枚数）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	9.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	N	化学療法（日数）	1.0日/月・床以上	40日/月以上	18.3%	2.5%	1.4%	2.2%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	17.8%	12.3%	4.3%	0.0%	0.0%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上	65.3%	42.6%	0.0%	0.0%	4.5%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					83.3%	58.2%	11.4%	27.2%	4.5%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

76.4%	49.1%	16.4%	25.6%	7.7%
-------	-------	-------	-------	------

（参考）平成28年度該当病床割合